

平成30年度

特別養護老人ホーム
岱山苑

事業報告書

平成30年度

岱山苑

ショートステイ

事業報告書

平成30年度 事業報告

「平成30年度介護報酬改定」により、配置医師による緊急時対応、看取り介護加算の取り組み、身体拘束等の適正化の要件が見直されました。

身体拘束の適正化については、委員会の設置や職員への研修等が義務付けられ、少ない職員体制の中でもケアの方法の見直しや職員の資質向上を図る取り組みを行いました。

前年度同様、要介護度、医療度が高い方の入所が増え、現在、100歳以上の入所者が3名、入所者平均年齢89歳、平均在苑期間は3年2ヶ月という入所期間の中、入所者・家族との関係づくりにも、より一層力を入れた1年でした。

入退所（入所23件、退所20件）・入退院総件数48件と月平均7.5名が何らかの動きのある中で少しでも空床日数を減らせるように早めの退院の調整と入所調整を図り、年間充足率 平均96.9%の結果となりました。

平成30年度の苑内での看取りは13名、入院治療中に亡くなられた方が5名、計18名とのお別れがありました。苑内での看取りを選択された本人や家族へは、短い在苑期間での信頼関係の構築や面談のタイミングを考えさせられた1年でした。

重度（平均介護度4.2）の入所者が増える中、職員の働きやすいシフトパターンが増える一方で、時間帯次第で利用者への対応が安全を重視せざるを得ない状況が続いています。慌ただしい業務の中でも、関係づくりの時間を大切にし、入所者・家族が望む暮らしへ各専門職がどう関われるのかを今後も考えていきたいと思えます。